

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

2

(11)Publication number : 2000-125026
 (43)Date of publication of application : 28.04.2000

(51)Int.CI. H04M 11/00
 H04B 7/26
 H04Q 7/38
 H04M 1/27
 H04M 1/66

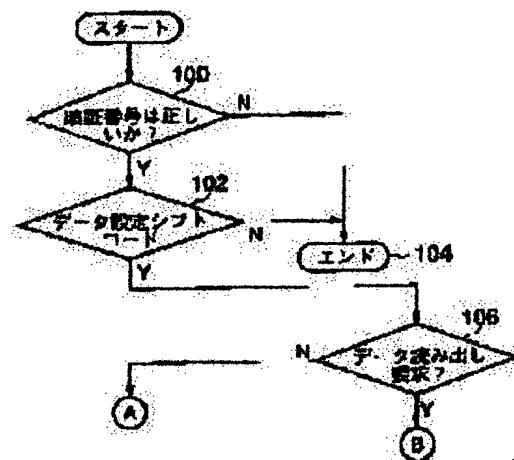
(21)Application number : 10-297308 (71)Applicant : KENWOOD CORP
 (22)Date of filing : 19.10.1998 (72)Inventor : KODATE ATSUSHI

(54) DATA SETTING METHOD OF PORTABLE COMMUNICATION TERMINAL

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a data setting method of a portable communication terminal which can remotely set and read data in and out of the portable communication terminal.

SOLUTION: When judging that character data received by mailing are information regarding the reading and writing of data setting, the portable communication terminal confirms whether or not the password code included in the received character data is correct. When the password code is correct, the data setting code is confirmed and then the read or write of data is judged. When the data is written, the data instructed in the received mail are set. When the data are read out, the specified setting data are set in a mail, which is sent back to the terminal having made the read request.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 16.08.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-125026
(P2000-125026A)

(43)公開日 平成12年4月28日 (2000.4.28)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	マーク* (参考)
H 04 M 11/00	301	H 04 M 11/00	301 5K027
H 04 B 7/26		1/27	5K036
H 04 Q 7/38		1/66	A 5K067
H 04 M 1/27		H 04 B 7/26	M 5K101
1/66			109R

審査請求 未請求 請求項の数10 OL (全8頁)

(21)出願番号 特願平10-297308

(22)出願日 平成10年10月19日 (1998.10.19)

(71)出願人 000003595

株式会社ケンウッド

東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号

(72)発明者 小籠 厚志

東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号 株式

会社ケンウッド内

(74)代理人 100086368

弁理士 萩原 誠

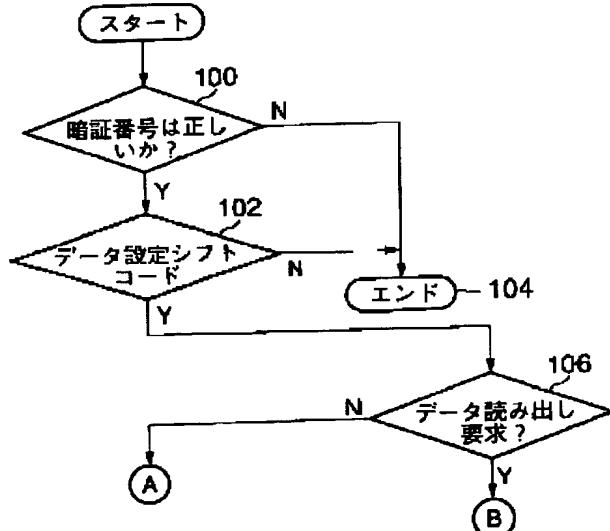
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 携帯通信端末のデータ設定方法

(57)【要約】

【課題】 遠隔より携帯通信端末におけるデータの設定・読み出し操作を行うことが可能な携帯通信端末のデータ設定方法を提供すること。

【解決手段】 メール等でキャラクタデータを受信した携帯通信端末は、データ設定のリード/ライトに関する情報だと判断すると、まず、受信したキャラクタデータに含まれている暗証番号が正しいかどうかを確認する。そして、正しければ、データ設定シフトコードを確認した後、データの読み出しまたは書き込みかを判断する。その結果、データの書き込みの場合には受信したメールで指示されたデータの設定を行う。また、データの読み出しの場合には指定された設定データをメールにセットして読み出要求を行った端末に返送する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 携帯通信端末のデータ設定を遠隔より行う携帯通信端末のデータ設定方法において、キー入力された前記携帯通信端末の設定データをキャラクタデータにより前記携帯通信端末に網を介して送信し、前記携帯通信端末がこの文字メッセージを受信し、その内容がデータ設定であることを検出すると、この文字メッセージに示されたデータ設定を実行することを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項2】 請求項1に記載のデータ設定方法において、前記キャラクタデータはメール機能により送信されることを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項3】 請求項1に記載のデータ設定方法において、前記データ設定は、前記携帯通信端末に設定されているデータの読み出し、またはこの携帯通信端末に設定するデータの書き込みであることを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項4】 請求項3に記載のデータ設定方法において、前記データ設定の内容がデータの読み出しの場合は、前記携帯通信端末はメール機能を用いて該当するデータを返送することを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項5】 請求項4に記載のデータ設定方法において、前記携帯通信端末は、前記設定されているデータの読み出しを行う旨の文字メッセージを受信して前記メール機能により送信処理を実行している間、前記携帯通信端末の表示部にデータ内容を送信中であることを表示し、前記設定されているデータの書き込みを行う旨の文字メッセージを受信して書き込み処理を実行している間、前記携帯通信端末の表示部にデータ書き込み中であることを表示することを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項6】 請求項3に記載のデータ設定方法において、前記データ設定の内容がデータの読み出しの場合は、前記携帯通信端末は前記データ設定を要求した端末に発呼びし、

該当するデータを音声合成機能により音声信号に変換して通知することを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項7】 請求項1に記載のデータ設定方法において、前記データ設定を行うキャラクタデータは、ユーザ・ユーザ情報要素の中のユーザ情報に書き込まれ、レイヤ3の呼制御メッセージにより前記携帯通信端末に送信されることを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項8】 請求項1に記載のデータ設定方法において、前記携帯通信端末のユーザ情報にはキー入力された暗証番号が記憶され、前記携帯通信端末はこの暗証番号

が一致した場合にのみ前記データ設定を実行することを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項9】 請求項1に記載のデータ設定方法において、前記携帯通信端末のデータ設定の内容は、第三者による不正使用を防止するダイヤルロック設定、着信時の呼び出し音量を変更する着信音量設定、第三者に電話帳に登録されたデータを見ることができないようにするシークレット設定、記憶している発呼者端末の電話番号を読み出すメモリダイヤル設定、暗証番号の変更を行う暗証番号設定、電源をOFFしてバッテリのセーブを行うバッテリセーブ設定のいずれかまたはこれら組み合わせたものを含むことを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【請求項10】 請求項9に記載のデータ設定方法において、前記携帯通信端末はグループ別に電話帳登録がされており、グループ別に前記シークレット設定・解除またはダイヤルロック設定・解除が行われることを特徴とする携帯通信端末のデータ設定方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は携帯電話機やPHS(Personal Handy-Phone System)等の携帯通信端末、より具体的には携帯通信端末を遠隔より操作する技術に関する。

【0002】

【従来の技術】 携帯電話機またはPHS等の携帯通信端末は、端末が移動中にあっても通信が可能であるという大きな特徴があり、近年、急速に普及している。このような携帯通信端末は携帯しながら使用するため、置き忘れや盗難等の固定型電話機では発生しなかつた持ち運びによるトラブルが生じることがある。このように、携帯通信端末が置き忘れや盗難等により持ち主以外の第三者に渡っても、携帯通信端末自体に所有者を判別する機能が備わっていないので、持ち主と同様に発信操作等を行うことができる。したがって、例えば置き忘れや盗難等により第三者に携帯通信端末が渡った場合、第三者の不正使用による通信料金が持ち主に対して請求されるという問題が発生することがあった。

【0003】 一方、近年の携帯通信端末の中には、不正な発信を禁止するキーロックまたはキー入力を禁止するダイヤルロックの機能を備えたものが開発され、製造・販売されている。この2つの機能は、自分以外の不正な発信を禁止することを目的としている。このようなロック機能を備えた携帯通信端末であれば、例えば置き忘れや盗難等により持ち主以外の第三者に渡っても、この機能が設定されている限り発信操作が行えないで効力を発揮する。

【0004】 このようなキーロックまたはダイヤルロックのような従来技術におけるロック機能は、例えば靴等に入れた携帯通信端末のダイヤルキーが不正に押下さ

れて発信が行われるのを防止する目的であれば十分な効果を得ることができる。しかしながら、従来技術におけるこの種のロック機能は、置き忘れや盗難等により第三者による不正使用を防止するには十分な効果を得ることができなかつた。

【0005】これは、上記ロック機能がいづれも発信操作の際に暗証番号を入力しなければならないため、頻繁に発信操作を行う通常時には一般にこれらロック機能を解除しているからである。したがつて、置き忘れや盗難にあった場合には、ロック機能が解除されていることが多く、第三者による不正使用を防止できないという問題があつた。

【0006】このため、特開平9-215057号公報、特開平9-182158号公報、特開平8-251660号公報および特開平7-193865号公報には、このような置き忘れや盗難にあった場合に、遠隔より携帯通信端末のロック機能を有効にすることで、携帯通信端末が不正使用されるのを防止する従来技術が開示されている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これら文献に示された上記従来技術では、遠隔制御を行う端末からの要求を網側が受信・解析し、この解析した結果により網側が端末制御のコマンドを生成して遠隔制御される携帯通信端末に送信する。したがつて、遠隔制御できる内容が網側に依存されるとともに、非常に限定されてしまうという問題があつた。

【0008】また、上記従来技術では、確かに置き忘れや盗難にあった場合に第三者による不正使用が行われないようロックをかけることはできるが、携帯通信端末のデータ設定を遠隔より行うことはできない。したがつて、これら従来技術では、以下に示す状況になった場合の対応が携帯通信端末の持ち主にとって好ましいものではなかつた。

【0009】すなわち、例えば、会社の机の上等に携帯通信端末を置き忘れたときに、着信音で周囲に迷惑をかけないためには、会社の同僚に連絡して携帯通信端末の電源を「OFF」にしてもらうか、着信音量を「OFF」あるいは「小」に設定してもらう等のお願いをするしかない。

【0010】出張先で充電器がないときに、携帯通信端末を外出先に置き忘れたが、時間が遅いので取りに行けない。また、そこには誰もいない。誰も電源を「OFF」することができないので、バッテリの消耗をいたずらに進めてしまうことを防止することができない。

【0011】電話をかけなければならないが、その電話番号は携帯通信端末の中にしか登録されていない。携帯通信端末は会社に置いてきたが、ダイヤルロックの状態に設定してあるので、携帯通信端末を操作して番号を教えてもらうことができない。番号を聞くためには、大切

な暗証番号を教えて、メモリダイヤル情報を読んでもらうしかなかつた。また、番号を聞いた後に、元の状態に戻すにはダイヤルロック状態にする操作を第三者に教え、設定してもらわなければならぬ。

【0012】電話をかけなければならないが、その電話番号は携帯通信端末の中にしか登録されていない。しかも、その番号は電話帳の中でシークレット設定されている。携帯通信端末はシークレット設定された電話番号を読みないモードになっている。番号を第三者に調べてもらうにはシークレット設定を解除するシークレット番号を教えてから、電話番号を表示部に表示してそれを読んでもらうしかなかつた。また、番号を聞いた後でシークレット設定した電話番号を見られないモードに戻すためには、第三者にシークレット設定された電話番号を読みないモードに設定してもらう必要がある。

【0013】電話番号を知りたいが、その電話番号は携帯通信端末にしか登録されていない。誰かに電話をかけて調べてもらおうとしたが、誰もいないので携帯通信端末に登録されている電話番号を調べてもらうことができない。連絡用に携帯通信端末を他の人に貸したが、着信音量「OFF」の設定にしてあるので、携帯通信端末を呼び出しても着信に気付かないので連絡が取れない。

【0014】本発明はこのような従来技術の課題を解決し、遠隔より携帯通信端末におけるデータの設定・読み出し操作を行うことが可能な携帯通信端末のデータ設定方法を提供することを目的とする。

【0015】

【課題を解決するための手段】本発明は上述の課題を解決するために、携帯通信端末のデータ設定を遠隔より行う携帯通信端末のデータ設定方法において、キー入力された携帯通信端末の設定データをキャラクタデータにより携帯通信端末に網を介して送信し、携帯通信端末がこの文字メッセージを受信し、その内容がデータ設定であることを検出すると、この文字メッセージに示されたデータ設定を実行する。

【0016】

【発明の実施の形態】次に添付図面を参照して本発明による携帯通信端末のデータ設定方法の実施の形態を詳細に説明する。図4を参照すると、本発明による携帯通信端末のデータ設定方法が適用される携帯通信端末の実施の形態を示す機能ブロック図が示されている。

【0017】図4に示す携帯通信端末は、メール機能を備えており、電源の「ON」、「OFF」に関係なく発信者端末より送信されたメールをメールセンターを介して受信することができる。この携帯通信端末はまた、メールによるキャラクタデータを受信したとき、このメールにデータ設定のリード／ライトに関する情報が含まれているかどうかを判断し、含まれている場合には該当する処理を行う。このように本実施の形態では、メールにデータ設定に関する情報を含ませているので、携帯通信

端末のデータ設定を行うにあたって網側が関与することは無い。

【0018】図4に示すように、携帯通信端末は、当該端末装置の全体を制御するマイクロコンピュータ(MPU)50と、電話番号の入力や文字メッセージの入力または電話帳への登録さらにメール用グループの設定等を行う種々のキーが配設されたキー操作部60と、電話帳に登録されたデータやメール用グループとして設定されたデータが保存されるE² PROM62と、キー操作部60から入力された電話番号やメッセージ情報または各種動作モードのアイコン等を表示するLCD等からなる表示部64とを備える。

【0019】なお、電話帳に登録した電話番号は必要に応じてシークレット設定を行うことが可能であり、第三者によって見られることを防止することができる。また、表示部64には、後述するデータ設定に関する処理を実行中に「○○データ書き込み中」、あるいは「××データ内容送信中」等も表示することができる。

【0020】当該端末装置はまた、着信時にこの装置を振動させて着信を知らせる振動モータ66と、基地局からの電波を受信したり基地局への電波を送信するアンテナ68と、アンテナ68を介して送受信する音声信号やデータ信号に対してRF送信処理またはRF受信処理を行うRF回路70と、スピーカ72と、マイク74とを備える。当該端末装置はさらに、RF回路70でRF受信処理された受信信号をAF処理してスピーカ72から音声出力するとともに、マイク74から人力した音声信号をAF処理してRF回路70に出力するAF回路76を備える。

【0021】MPU50は、その内部にCPU51、ROM52、RAM53、クロック54、I/Oポート55およびタイマ56により構成されている。CPU51は、クロック54から供給されるクロックに同期して動作し、ROM52に格納されている当該端末装置の動作処理手順を規定するプログラムに基づき、指定された処理を演算データおよび外部情報を格納するRAM53を用いて実行する。CPU51はまた、I/Oポート55を介してMPU50以外の各構成要素と接続され、信号やデータの授受を行うことにより、所定の機能を実行する。

【0022】すなわち、CPU51は、メール等でキャラクタデータを受信すると、データ設定のリード/ライトに関する情報か否かを判断し、データ設定に関する情報の場合には、この情報の内容に従って図1～図3に示すフローチャートの処理を実行する。なお、図1、図2および図3に示された各フローはそれぞれ、丸で囲まれた「A」、「B」により結合されることにより、データ設定に関する一連の処理を示す。

【0023】CPU51は、データ設定のリード/ライトかどうかの識別を、キャラクタデータの先頭にエスケ

ープコードが付与されているかどうかで判断する。図1～図3にはこのエスケープコードが付与されていた場合の処理フローが示されている。また、本実施の形態において、設定したいデータや読み出したいデータは、メール機能やキャラクタデータをエンド・エンドで伝達されるシリアルの呼制御メッセージ(CCメッセージとも称す)により伝達される。

【0024】このようにエンド・エンドでキャラクタデータを送信する手段としては、例えば図5に示すユーザ・ユーザ情報を使用する。ユーザ・ユーザ情報には、図5に示されているように、ユーザ・ユーザ情報要素識別子、ユーザ・ユーザ内容長、プロトコル識別子およびユーザ情報により構成され、この中のユーザ情報を用いてデータ設定を行うキャラクタデータを送信する。

【0025】図6にはユーザ情報に記述されるフォーマット、すなわち、(a)には「読み込み/書き込みフォーマット」が、(b)には「読み出しフォーマット」がそれぞれ示されている。「読み込み/書き込みフォーマット」はリモート設定を行う操作側が使用するデータフォーマットである。また、「読み出しフォーマット」はリモート設定によりデータ設定の要求を行った操作側にデータを送信するときに使用するデータフォーマットである。

【0026】「読み込み/書き込みフォーマット」は、4バイトデータで指定する「暗証番号」と、データ設定を行う旨の内容が記述される「データ設定ソフトコード」(なお、ここにはユーザ情報で使用されていないコードが割り当てられる)と、リードまたはライトの種別を指定する「リード/ライト種別」と、データ設定する種別(ダイヤルロック、着信音量、シークレットおよびメモリダイヤル等)を指定する「データ種別」と、データの長さを記述する「データ長」と、可変長データである「データ」と、可変長アドレスデータである「送信先アドレス」とにより構成されている。

【0027】また、「読み出しフォーマット」は、読み出結果のOK/NCをそれぞれ0x80と0x00で記述する「リード結果」と、要求されたデータ設定種別(ダイヤルロック、着信音量、シークレットおよびメモリダイヤル)を記述するデータ種別と、データの長さを記述する「データ長」と、返信する可変長データを記述する「データ」とにより構成されている。

【0028】次に、図1～図3に戻ってデータ設定のリード/ライトにおける処理フローを説明する。図4に示した本実施の形態の携帯通信端末がメール等でキャラクタデータを受信し、このキャラクタデータの先頭にエスケープコードが付与されてデータ設定のリード/ライトに関する情報だとCPU51が判断すると、まず、暗証番号が正しいかどうかのチェックを行う(100)。すなわち、受信したキャラクタデータの中の送られてきた暗証番号、例えば「1234」が、携帯通信端末に設定

されている暗証番号と一致するか否かのチェックを行う。

【0029】そして、照合した暗証番号が正しければ、データ設定シフトコードのチェックを行い(102)、このデータ設定シフトコードも正しければ要求コードの実行に移る。一方、暗証番号やデータ設定シフトコードが正しくない場合には処理を終了する(104)。

【0030】データ設定シフトコードが正しい場合、要求コードの内容により以下の処理を行う。すなわち、要求コードが「ライト」の書き込みの場合(106)、データ種別にダイヤルロックに関する設定(110)、着信音量に関する設定(116)、またはシークレットに関する設定(122)、のいずれが指定されているかを確認する。

【0031】その結果、処理110のダイヤルロックに関する設定であれば、図6の(a)の「データ」に示されているダイヤルロックの内容にしたがってダイヤルロックを設定し(112)、処理を終了する(114)。具体的には、例えば「0」が「ロック解除」、「1」が「ロック設定」であれば、図6の(a)の「データ」には「0」か「1」のいずれかが記される。もし、これ以外の数値が「データ」に記されている場合にはダイヤルロックの設定は無視され、実行されることはない。

【0032】なお、本実施の形態におけるダイヤルロック設定は、単にセキュリティのためにダイヤルロックの設定を行うのではない。すなわち、ここでのダイヤルロック設定では、携帯通信端末の操作を可能にするために、ダイヤルロック解除をリモート操作で行った後に設定を前のロック状態に戻すことを目的としている。また、間違えて他の項目の設定をするつもりが、ダイヤルロック解除のリモート操作を行ってしまったときに、この設定を戻すためにダイヤルロックをリモートで行えるようにしている。

【0033】また、処理116の着信音量に関する設定であれば、図6の(a)の「データ」に示されている着信音量の内容にしたがって着信音量を設定し(118)、処理を終了する(120)。具体的には、例えば「0」が「OFF」、「1」が「小」、「2」が「中」、「3」が「大」のように予めきめてあればこれら数値が図6の(a)の「データ」に記される。これ以外の数値が「データ」に記されていた場合にはこの処理が無視される。

【0034】さらに、処理122のシークレットに関する設定であれば、図6(a)の「データ」に示されているシークレットの内容にしたがってシークレット設定を行い(124)、処理を終了する(126)。もし、データ種別がダイヤルロック、着信音量またはシークレットのいずれにも該当しない場合にはCPU51は処理を終了する(128)。

【0035】なお、データ設定の種類としては、上記の

3種類の他に例えば暗証番号の変更を行う暗証番号設定や電源を「OFF」してバッテリのセーブを行うバッテリセーブ設定等を含んでもよい。すなわち、ここで説明したデータ設定はあくまで一例を示したもので、携帯通信端末の全機能を対象とすることも勿論可能である。

【0036】また、要求コードが「リード」の読み出しの場合(106)、データ種別にダイヤルロック設定読み出し(130)、着信音量設定読み出し(138)、シークレット設定読み出し(142)またはメモリダイヤル情報読み出し(146)、のいずれが指定されているかを確認する。その結果、処理130のダイヤルロック設定読み出しがあれば、現在設定されているダイヤルロックの内容を読み込んで、図6(b)の読み出しフォーマットの「データ」に記して、メールにセットする(132)。この際、読み出しフォーマットには「OK」または「NG」のリード結果やダイヤルロックのデータ種別も記載する。そして、メールを指定された送信先アドレスに自動送信し(134)、処理を終了する(136)。

【0037】また、処理138の着信音量設定読み出しがあれば、現在設定されている着信音量の内容を読み込んで、図6(b)の読み出しフォーマットの「データ」に記載し、メールにセットする(140)。この場合も、読み出しフォーマットには「OK」または「NG」のリード結果や着信音量設定のデータ種別も記載する。そして、メールを指定された送信先アドレスに自動送信し(134)、処理を終了する(136)。

【0038】さらに、処理142のシークレット設定読み出しがあれば、図6(a)の「データ」で指示された内容のシークレット設定を読み込んで、図6(b)の読み出しフォーマットの「データ」に記載し、メールにセットする(144)。この場合も、読み出しフォーマットには「OK」または「NG」のリード結果やシークレット設定のデータ種別も記載する。そして、メールを指定された送信先アドレスに自動送信し(134)、処理を終了する(136)。

【0039】また、処理146のメモリダイヤル情報読み出しがあれば、図6(a)の「データ」に示された内容のメモリダイヤル情報を読み込んで、図6(b)の読み出しフォーマットの「データ」に記載し、メールにセットする(148)。この場合も、読み出しフォーマットには「OK」または「NG」のリード結果やメモリダイヤル情報のデータ種別も記載する。そして、メールを指定された送信先アドレスに自動送信し(134)、処理を終了する(136)。もし、データ種別がダイヤルロック、着信音量、シークレット設定またはメモリダイヤル情報のいずれにも該当しない場合にはCPU51は処理を終了する(150)。

【0040】以上、詳細に説明したように本実施の形態によれば、例えば会社や自宅等で携帯通信端末の電源を

「ON」にしたままで置き忘れたときに、携帯通信端末に対して以下の操作を行うことが可能となる。

【0041】着信音が「大」等に設定されているときに、リモート設定で着信音を「OFF」や「小」に設定することができるので、着信音で周囲に迷惑をかけなくて済む。リモート設定で電源を「OFF」にすることができるので、不必要にバッテリを消費させることがなくなる。

【0042】ダイヤルロックの設定になっているときに携帯通信端末に登録されている電話番号が知りたい。そんなときでも、リモート設定でダイヤルロックの状態を解除することができるので、暗証番号を教えずにダイヤルロックを解除することができる。その後、必要なダイヤル番号等を第三者に見てもらい、聞き出すことができる。また、ダイヤル番号を聞き出した後に、リモート設定で元のダイヤルロック状態に戻すことができる。

【0043】シークレット番号が読み出せないモードになっているときに、シークレットになっている番号中の電話番号を知りたい場合でもこの電話番号を調べることができる。すなわち、リモート設定でシークレット番号を読めるモードにすることによって、シークレット番号を第三者に教えてシークレット番号を読めるようにすることなく、シークレット番号を第三者に調べてもらつて聞き出すことができる。また、シークレット番号を聞き出した後にリモート設定で元の状態に戻すことができる。

【0044】携帯通信端末に登録されている電話番号を調べたいが誰もいない。そんなときでも、リモート設定でメモリダイヤルの設定内容を調べ、その内容を携帯通信端末が自立的にメールを発行して、メールに記載されているアドレスにメールを送ることができます。自動的にメールを送るのでメモリダイヤルの内容を手元に携帯通信端末が無くとも知ることができます。

【0045】携帯通信端末を忘れたのではなく、連絡用にある人に貸したが、着信音を「OFF」のままで貸してしまって、携帯通信端末に電話をかけても連絡が取れない。こんなときでも、本実施の形態ではリモート設定で着信音を鳴らす状態にすることが可能なため、着信音を鳴動する設定に変えることで携帯通信端末を貸した人に連絡をとることができる。

【0046】なお、本実施の形態では、ユーザデータの読み出しにメールを使用して設定データを自動送信するようにしたが、本発明は特にメールに限定されるものでは無い。すなわち、ユーザデータを音声信号に変換する音声合成機能を携帯通信端末に搭載していれば、指定された電話番号に自動的に発信して「設定項目××のデータは○○に設定されています」というような音声ガイダンスでユーザデータの読み出しを行うようにしてもよ

い。

【0047】また、本実施の形態では、1回の操作で1件のデータのリード/ライトを行っているが、1回の操作で複数件のデータのリード/ライトを行ってもよい。さらに、例えばグループ別に電話帳登録がされていれば、あるグループのみシークレット設定を行うことも可能である。また、発信許可を行う電話番号をグループ別に予め登録しておけば、ダイヤルロック設定を行っても特定のグループに所属している電話番号は発信を行えるようにすることができる。また、グループ別にシークレット解除やダイヤルロック解除を行うことも可能である。

【0048】

【発明の効果】このように本発明の携帯通信端末のデータ設定方法によれば、携帯通信端末が手元に無くても、データの設定や設定されているデータの読み出しを行うことが可能である。したがって、携帯通信端末を置き忘れてしまった場合でも、ダイヤルロックや着信音量の設定等を行えるだけではなく、例えばシークレット設定した電話番号等も確認することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による携帯通信端末のデータ設定方法の実施の形態を示すフローチャート。

【図2】図1に示したフローチャートと結合される携帯通信端末のデータ設定方法の実施の形態を示すフローチャート。

【図3】図2と同様に図1に示したフローチャートと結合される携帯通信端末のデータ設定方法の実施の形態を示すフローチャート。

【図4】本発明による携帯通信端末の一実施の形態を示す機能ブロック図。

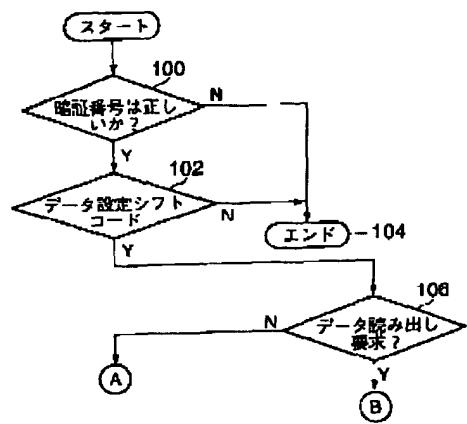
【図5】本発明による携帯通信端末のデータ設定方法で用いるユーザ・ユーザ情報要素のフォーマット。

【図6】本発明による携帯通信端末のデータ設定方法で用いるキャラクタデータの送信フォーマット（読み込み/書き込みフォーマット）と受信フォーマット（読み出しフォーマット）。

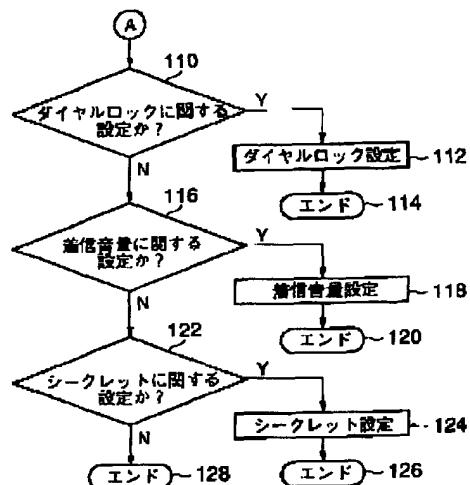
【符号の説明】

5 0	MPU
5 1	CPU
5 2	ROM
5 3	RAM
5 4	クロック
5 5	I/Oポート
5 6	タイマ
6 0	キー操作部
6 2	E ² PROM
6 4	表示部

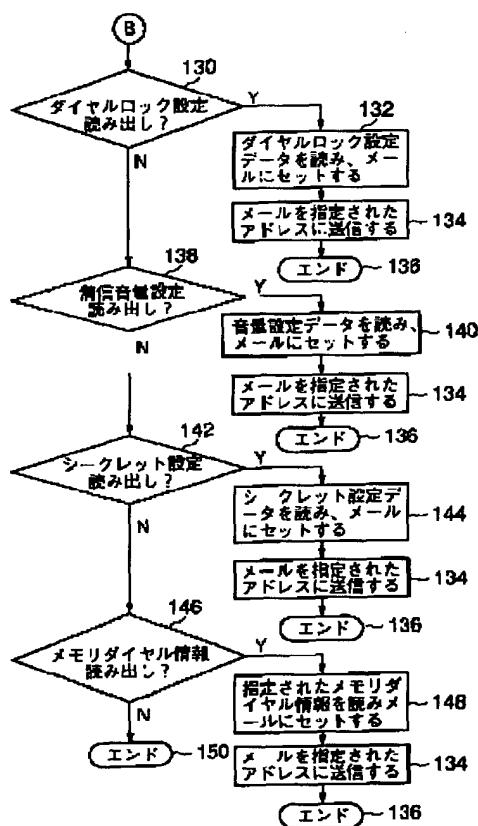
【図1】



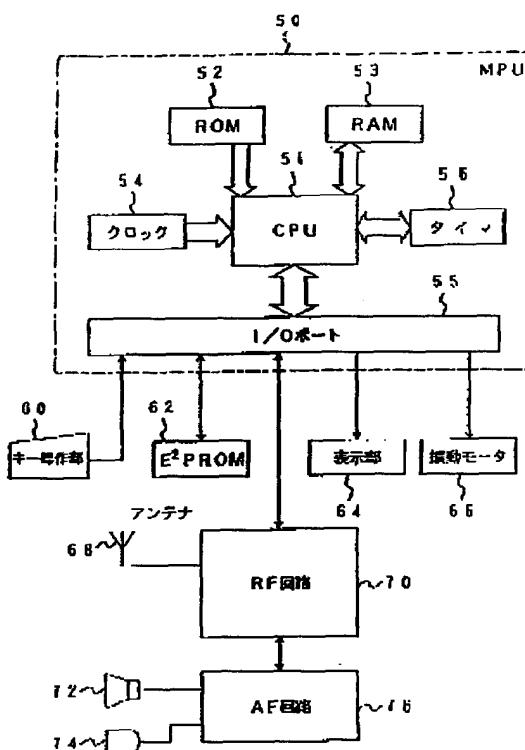
【図2】



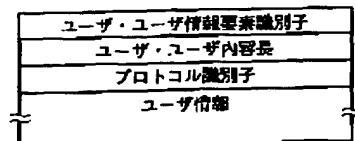
【図3】



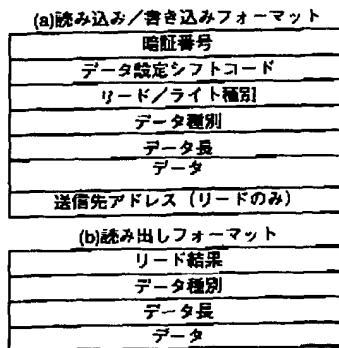
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

Fターム(参考) 5K027 AA11 BB09 CC08 DD16 EE13
 FF22 HH24
 5K036 AA07 JJ05
 5K067 AA32 BB04 BB21 DD11 DD17
 DD53 EE02 GG11 HH12 HH22
 5K101 KK02 KK11 LL12 NN16 NN18
 NN45 PP03